

もっと楽しく、もっと楽に、もっと儲かる農業へ
(データ共有で変わる！地域産業のDX)



1) 農家にIoPが導く様々な有益情報を伝えるIoPクラウド (SAWACHI) の普及



2022.9～ 本格稼働

1) アカウント配布数 (R6.5)

- ・農家の直接利用 : **1, 220戸**
- ・農家グループでの利用 : **30グループ (173名)**
- ・JAの利用 : **19部署 (すべての営農&県外事務所)**
- ・企業のテストベット活用 : **10社**

2) ハウス内環境モニター等接続利用数

- ・環境データ利用 : **618戸 (922ハウス)**

3) 出荷データ接続農家 (データ提供同意) 数 : **2, 606戸**

品 目	接続農家割合	(接続農家戸数 / 全農家戸数)
ナス	90.8%	(632戸 / 696戸)
キュウリ	96.1%	(490戸 / 510戸)
主要7品目全体	68.6%	(2,207戸 / 3,215戸)

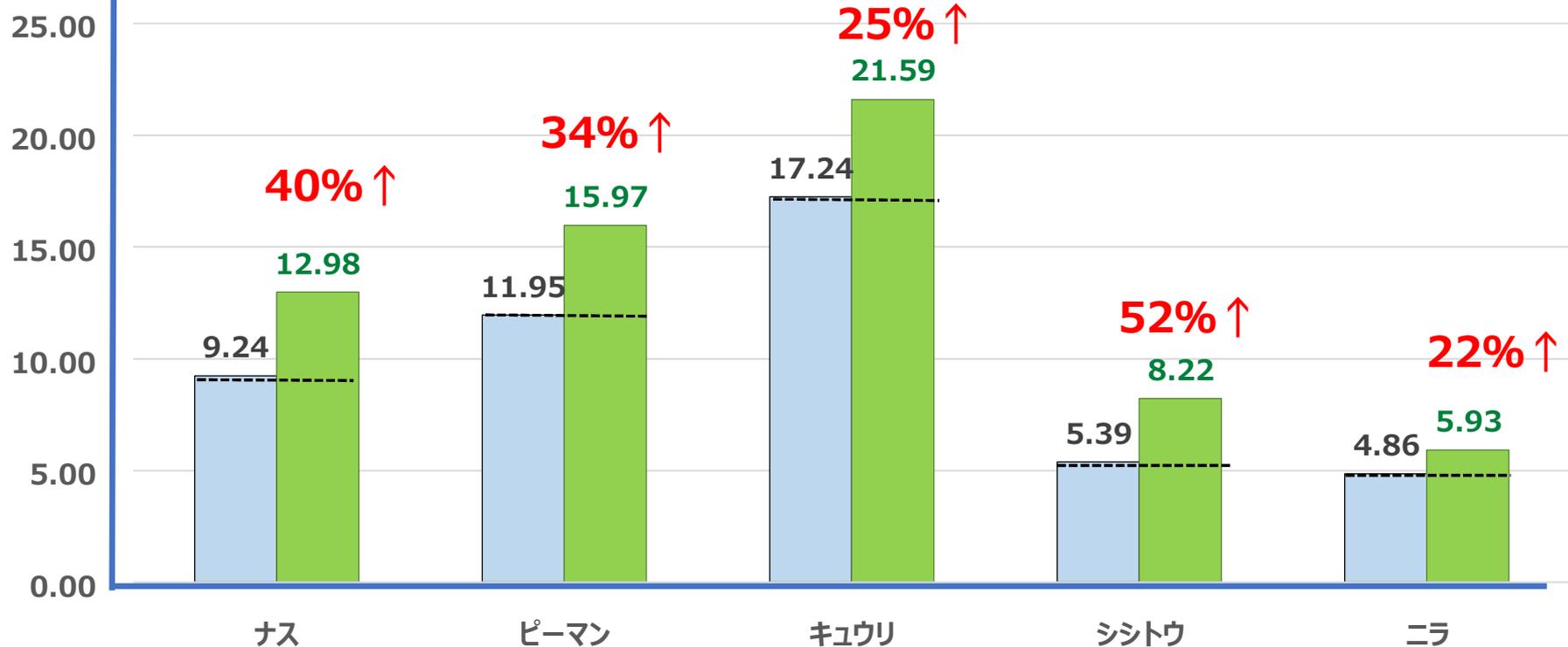
<ハウス栽培農家数を母数として算出した場合>・・・生産のメインとなるハウス農家は主要7品目全体で9割が接続
ピーマン : 85.8%(182戸)、シシトウ : 100%(143戸)、ニラ : 89.8%(343戸)、
ミョウガ : 84.4%(329戸)、トマト : 100%(88戸)

2-1) これまでの成果 SAWACHI利用農家の優位性 (JAへの出荷量比較)

※高知県農業技術センター情報研究室

■ 未利用農家：998戸 ■ SAWACHI利用農家：569戸

10
アール
当たりの
出荷量
(ト)



調査対象戸数：378戸 **201戸**

84戸 **79戸**

272戸 **165戸**

81戸 **34戸**

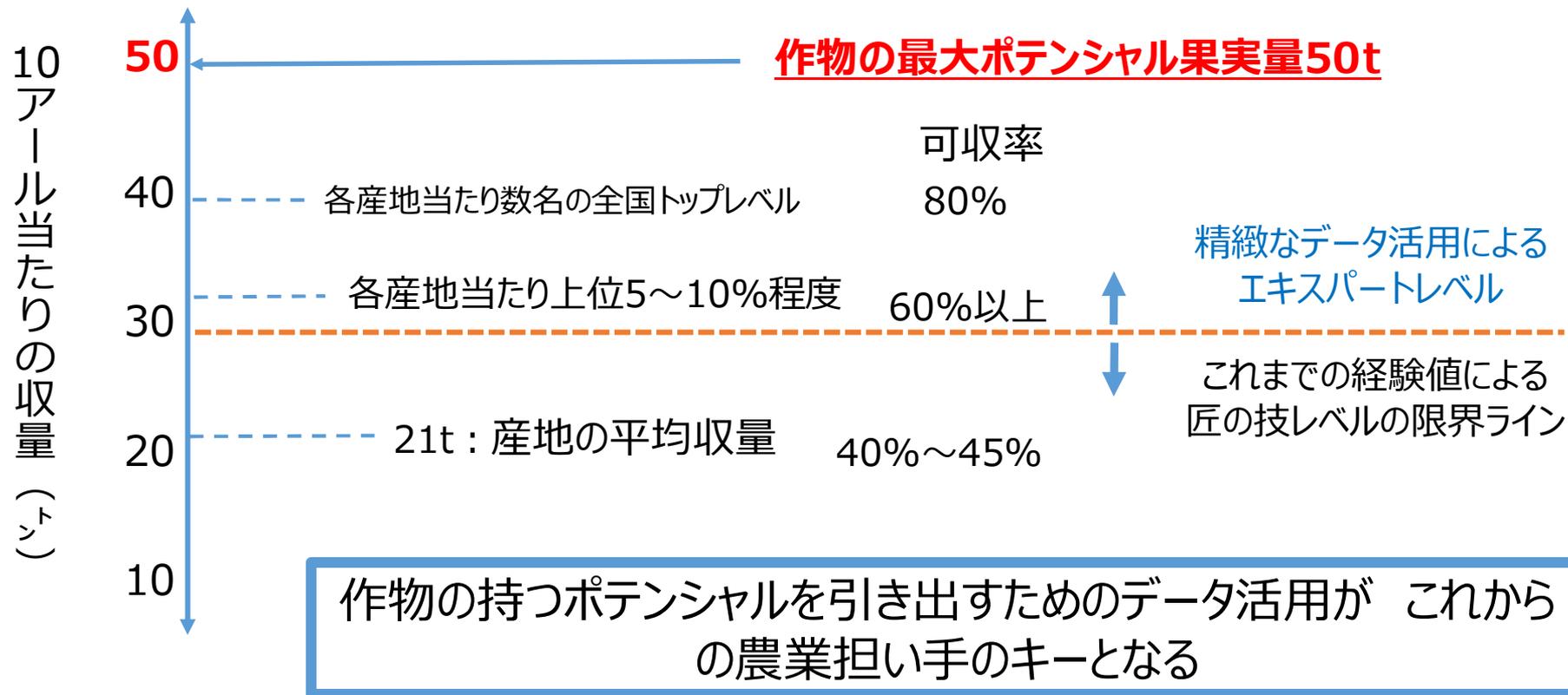
183戸 **90戸**

調査対象期間：(2023.1~7末)

← 2022.8~2023.7末 →

資料：春野胡瓜部会より

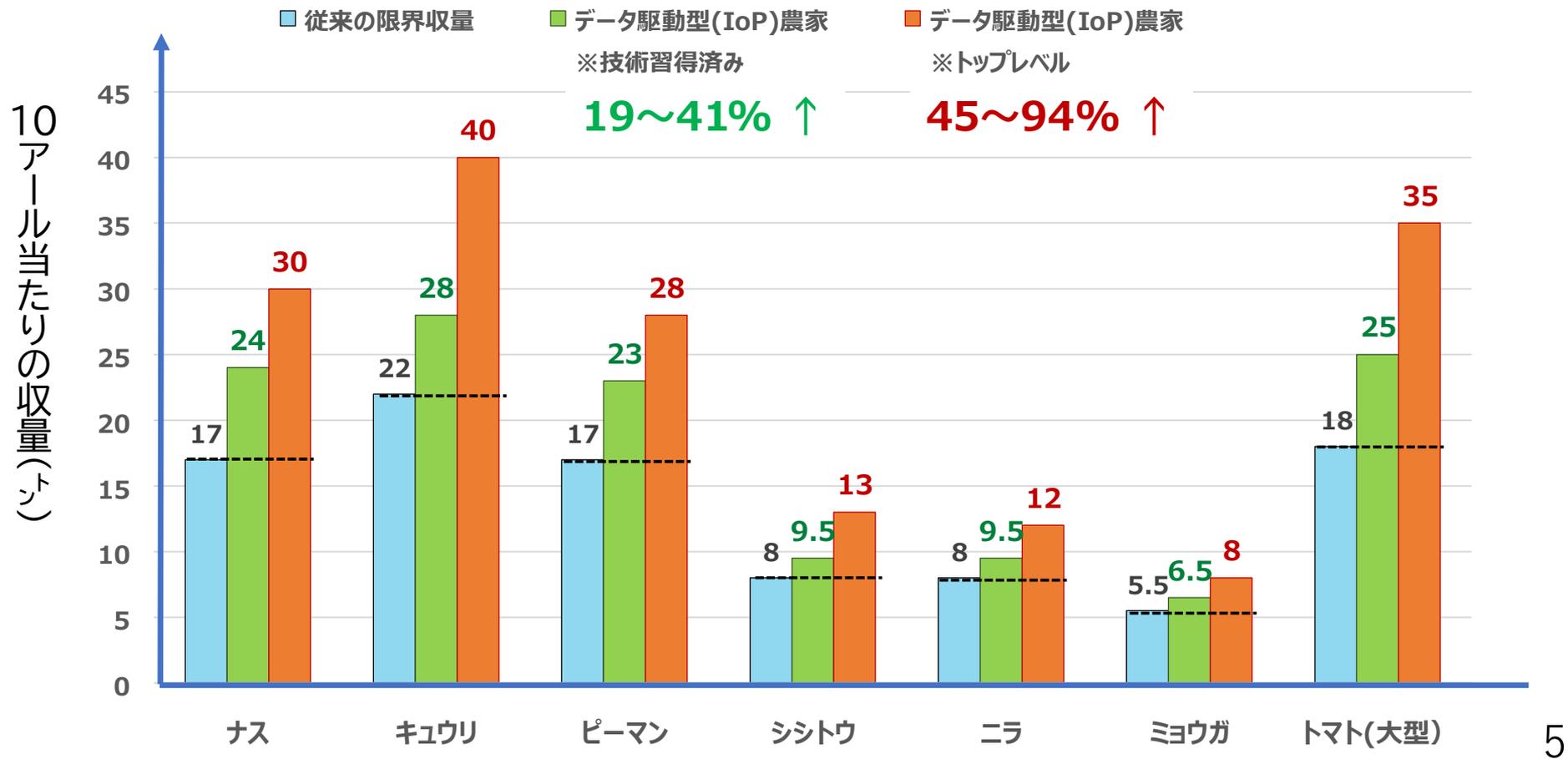
参考品目：きゅうり



2-3) これまでの成果

収量実績からみる各品目における生産性の向上レベル

※農業イノベーション推進課調べ



2-5) これまでの成果 主要品目におけるデータ駆動型農業の導入農家数

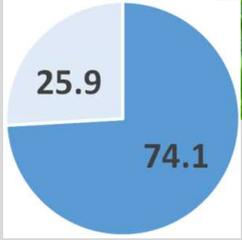
R5.3末
導入面積率(%)

主要7品目全体で **64%** **約1,800** 戸の農家が導入

ナス



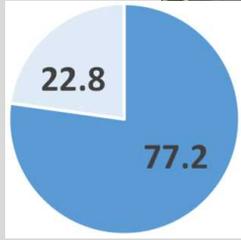
普及率 **74.1%**



ピーマン



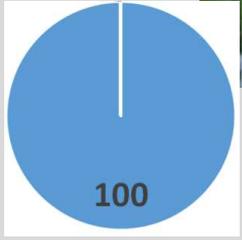
普及率 **77.2%**



トマト



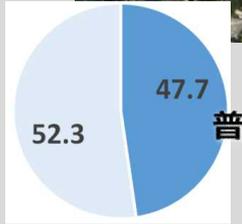
普及率 **100%**



シシトウ



普及率 **47.7%**



キュウリ



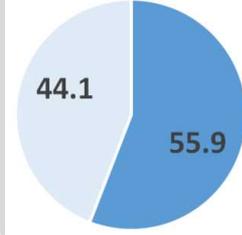
普及率 **42.8%**



ミョウガ



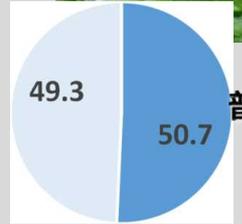
普及率 **55.9%**



ニラ



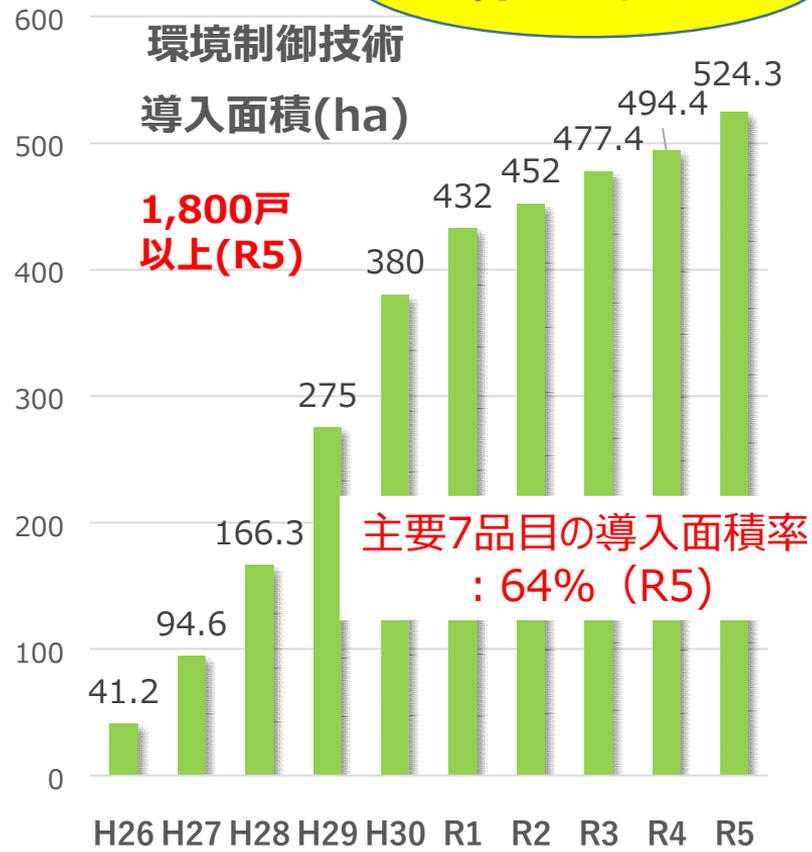
普及率 **50.7%**



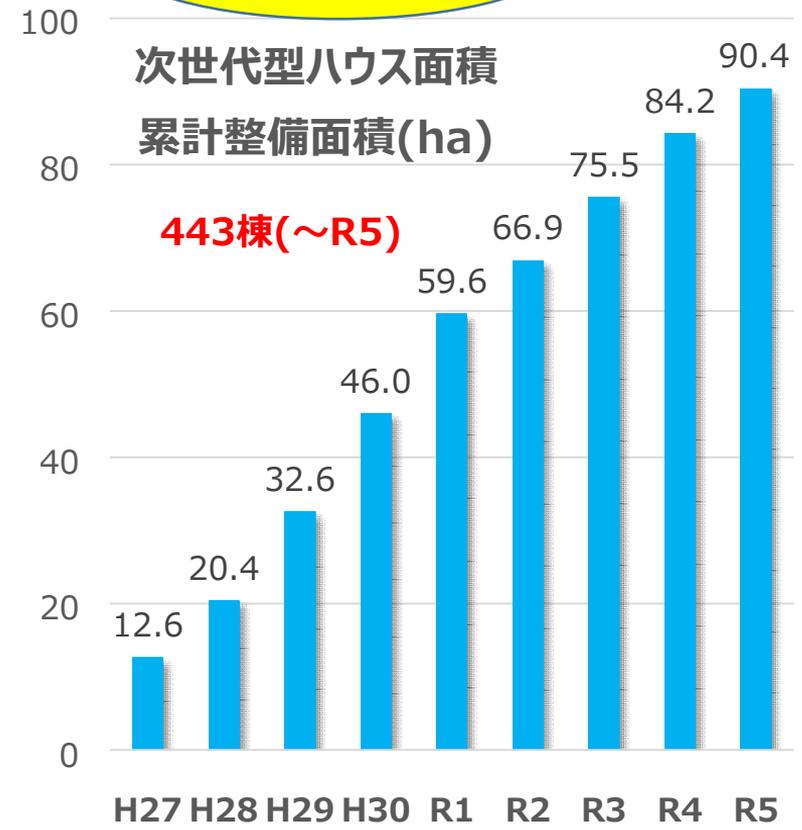
2-6) これまでの成果 データ駆動型農業の普及実績と増収効果/年の推移 (試算)

※農業イノベーション推進課試算

約45億円



約80億円



3) 産学官・農家連携による『SAWACHI』の強みと可能性

『SAWACHI』の強み

- 1. 農家は無料で利用できる**
(クラウド運営費は県・JAで負担)
※農家負担：通信費用のみ
※DX機器整備：補助金で支援
- 2. 申請すれば、誰とでも・グループでもデータ共有が可能**
※基本、他の農家からデータを見られることはありません。
- 3. 県・JAにとっては業務DXツール**
※個人データによる正確な指導が可能
- 4. メーカーの壁を越えて、データの共有・利用が可能**
※現状：県内・全国の14企業が連携
- 5. 新たな研究・製品開発が活性化**



『SAWACHI』の可能性

- 1. 全国の各自治体様から注目**
※どうやってデータを集めるか。
集めたデータをどう活用・フィードバックするかが全国の共通課題
※WAGRIと連携して、全国で活用できる『データ連携基盤』にしていく
- 2. 施設園芸だけでなく、露地野菜、果樹、水稻等でも利用可能**
- 3. 時系列データベースを必要とする1次・2次産業や、地域防災、ヘルスケア・福祉分野等でも活用の可能性**
- 4. 様々な分野の企業の皆様と連携して新たなソリューション開発・実証・普及が可能**